

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第14回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年8月30日(月) 午後16時05分～午後18時28分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1904会議室	
出席者	委員	生越詔二、石原正義、福田純子、久能正吾、濱元雅俊、鈴木芽吹 相田真人、小林昭文（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	小坂橋悦子 指導主事

### 1 はじめに

#### 部長

私は海外派遣に行ったときのさよならパーティーであいさつをした時に、車はホンダやスズキなど、学校を見るとヤマハやカワイのピアノなどがけっこうたくさんあり、これらの会社は全部浜松から興っているという話をしたら、「おおー」という感じになった。本田宗一郎が本田技研工業を興したり、ヤマハの山葉寅楠、河合小市が河合楽器をつくる話をしたが、そんな話は浜松の人間はだいたい知っている。というのは、昔は浜松では郷土の偉人という本があった。

考えるとそれが昔は道徳などにも使われていて、今でも覚えている。道徳でも最近是人を取り上げて扱うのは昔ほどないのかもしれないが、偉人伝などでも何か役に立つものがあるのではないかと思った。もう一つ言うと、昔と違うのは、昔は日の当たらなかつた人も、こういう人がいるといったことがそういう本に載るようになった。いろいろな捉え方があると思った。

#### 委員

私は全国の道徳の事務局をやっているが、行く先々で郷土資料集などがある。国際社会における郷土資料の大切さを今感じさせていただいた。いろいろな意味で心の教育にスポットを当てていくことがこれから要求されていると思うので、がんばりたい。

#### アドバイザー

先日埼玉県のある町の教育長と話していたら、その町から出た偉人を資料化し、これを県の資料集に載せてもらいたいと思い、出したのだが選にもれてしまった。でも、中身はいいので、ぜひ町の小中学生が使って、こんな偉人がいたのだということを残したいと語っていた。今の話と非常に重なっている。本区にもそれに匹敵する人たちが大勢いるだろうと思い聞いていた。

2点目は、別の地域の役所に学校地域支援課という課があり、学校の校長先生、PTAの会長、地域の事業に加わっている方々が集まり話をした。その中の質問を簡単に申し上げる。

一つは事業をやっている担当者がどんどん変わると事業が滞りがちになってしまうのはどうしたらいいか。まさに小中一貫や連携といったときに、人をどうコーディネートしていくか、これはどこの場でも大変な問題であると痛感した。

また心に関わる部分として、地域で虐待をしているのではないかとと思われる家庭があるが、近くに住んでいる者としては、その家庭と知り合いであればあるほど通告することが難しい。このような場合、どうしたらいいのかと。

それからもう1点は、学校支援や地域を活性化しようとする事業の中で、若いお母さんたちの意識があまり深まってこない。どういう方策をとったらよいかと。これもある地域だけの問題ではない、本区も似た問題を抱えていることもあると思う。それらを通すような、心をどう育てたらいいのかという辺りから、学校と家庭と地域が連携するようなものができれば、お互いに助け合うことになるのではといった思いを持った。

## 2 協議

### 事務局

事務局から。一つは、前回の要点録の訂正や削除があれば今週中に連絡をいただきたい。

2点目、これは事後承諾の形になって申し訳ないが、第8学年の学級活動、単元名として「大切な命を守るために」を1枚入れさせていただいた。これは最初の予定には入っていないが、教育指導課長から、本区で命に関わる事故が特に最近多く続いており、その対応の一つとして心の教育の推進部会で生命尊重を重点に置いているので、そこで道徳的なところだけでなく、実際に行動できるものを何か授業として取り組むことはできないか。特に中学生の辺りで一つ実践を入れてくれという話だった。

生越先生とも相談し、一覧表の生命尊重の中学生にあたる7、8、9年生の辺りに特にというところがなく、8年生で一応案を立てた。これは事務局が作成したものを示しただけ。参考資料は、本区で出した教員向けの「今学校にできること」、東京都が出している自殺予防に向けてのリーフレット「子どもの命を守ろう」、文部科学省の「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」、「青少年のための自殺予防マニュアル」、文科省の自殺予防関連の座長の高橋祥友先生が著している本など。自殺という言葉は前面に出したくなかったので、流れとしてまずは、自分自身が悩んでいるときにどのように対処したらいいか。そして自分だけではなくて、もし特に深刻に悩みを抱えている友達がそばにいたら、どのように手を差し伸べたり、対処すればいいのかということについて、スクールカウンセラーなどをゲストティーチャーとして招いて具体的な対処方法について学ぶという指導案を考えた。

これはまた後でご意見をいただいて、さらに良いものにしていきたい。

さて、8月2日に持ち寄っていただいた1回目の指導案についての確認。体裁は最初に示された学習指導案の通りとする。活動のねらいは心の教育の推進部会としてのねらいを記述する。基本としてはワークシート等の資料を含めて4ページとする。それ以上の、本時以外で使用するワークシートや資料等は、冊子には記載しないがCD-ROMに載せて、それで活用できるように学校に配付する。

今日確認していただくときに、指導案の形式がそろっているか、活動のねらいが心の教育の推進部会としてのねらいとなっているかどうか、それでよいかどうかということも含めて確認していただく。それから指導案として載せる部分と、CD-ROMに盛り込むものとを分けて考えていただきたい。山崎先生の資料で「学級活動・道徳」の「ようこそ先輩―夢への挑戦」は第1学年ではなくて第3学年の内容になるので、はじめに訂正する。

それでは、本日も前回のようにもう一度小学校、中学校に分かれて検討いただき、その後もう一度共通するところを確認し、ほぼ最終的なものになる。あとは最後に微調整したい。そこに行くまでの、今回は最後の詰めを意識していろいろと検討していただきたい。

(2班に分かれて討議)

**事務局**

全体会の話の場に戻したい。次回はほぼ最終的な確認で終了したい。これだけは全体で確認をしておいたほうがいいという項目はあるか。

**委員**

基本的なことで、字数、行数についてはどうなのか。

**事務局**

確実にお願いしたいのは、上下左右を 2 cm は空けること。本文の内容については通常の 10.5 ポイントで、指導案の中でちょっと詳しく囲みをつけて説明を入れたいときや、参考資料を載せるときも、収まらないときには 9 ポイントぐらいに落としてもいい。

**部長**

普通は 40 字詰め 40 行とかが多いと思うが、多少多くなるのはどうか。

**事務局**

40・40 ぐらいにしておいていただけるとありがたい。これがそのまま原稿になって入る。

**委員**

僕は変えない。これでもいいと言っていたらと僕の熱い気持ちがあるまま練馬区全域に広がる。しかし 50 行ぐらいある。

**アドバイザー**

四つの部会とも字数、行数は、スタートのときに決めてなかった。フレームの上下左右を空けるだけ。ちょっと心配なのは、10.5 ポイントと上下左右 2 cm でほかの要件がきちんとそろわないのだが。相田先生のように文字数を詰めてしまったら、見る側の立場からすると 4 部会ともこのようにいろいろなのが出てきたら、やはり抵抗がある。標準の中に部分的に入ってくるというイメージならば分かるが、交互に出てくるようなことになってしまうと、全体の体裁だけではなく利用、活用の仕方にも影響しかねない。その辺をはっきりさせたほうがいい。

**事務局**

同じにそろうように欠席の方にも伝わるようにしたい。そこでは必ず確認して、できるだけこの中で収めてほしいといったことを載せたい。

**委員**

普通の一般の先生の場合は 40 字、40 行ぐらいか。

**事務局**

だいたいそのぐらい。あとプラスアルファがどこまで OK かを確認していきたい。

## 部長

あと中学校で出たのは、指導案を入れるということだったが、全体の計画をきちんと示すことがまず優先されるだろうと。その指導案を書くのがふさわしいのかどうか、その辺はどうか。

## 事務局

前回の確認では、計画を立ててその中で例として本時案を1本入れることにしている。本時案の中で同じことを説明する必要はないと思うが、例えばこの1時間はこの案でやってもらうと、ねらいに沿った授業になると示すことができれば、とてもいい。

## 委員

道徳のいじめ防止キャンペーン。これが前回の話し合いでも、道徳の授業だけでやりきれない。8時間扱いでやろうというもの。心の教育としても扱いたいし、7年生としての達成感、第Ⅱ期を終わるにあたっての生徒の達成感も満足させるようなもの。それ以外に、ここは自尊感情なのだが、それ以外のものにも広がっていくような教材をつくるという話だった。そうするといろいろなものが入ってくる。これを見ると(2)活動の指導計画をしっかり骨組みを示せないといだけの量がこなせない、全体が分からないという問題にぶつかった。

特に分かりづらいことが何個かある。例えば2ページ、第3～6時の③「感謝の気持ちを伝えよう」で、どう伝えるのかの具体例がないと分からない。どんな紙に書くのかが見てすぐ分かるようにワークシートを入れる必要がある。また第7時の「キャンペーンを発表しよう」で、発表はどうやるのか、4ページにいじめ防止キャンペーンの進行表の形で入れた。最低限これらをやらないと、きっと分からないだろうと書いたら、これで4ページになる。そうすると、本時案を書くとても収まらず、こういう形にした。これでいいのかどうか。

もう1本つくった第9学年用社会科公民の授業、これは3時間扱い。新指導要領が24年度からスタートするが、公民の授業のいちばん頭に「現代社会をとらえる見方や考え方」という単元がある。これもなかなか難しく、コンセプトをしっかりつくらなくてはいけない。裏は全部のワークシート、CDに入れるものも含めてつくった。そしてどんなものを見せて授業展開をするのか具体的な授業で使う資料を載せた。そうするとやはり本時の展開が入らない。本時の展開を優先するよりも、全体構造を示したり、イメージがわくようなものを入れたほうが、この二つについてはふさわしいのではと思った。

あと、赤で書いたところは著作権上、参考教材のかたちで載せて差し支えないのかどうか。社会科で入れた上空からの写真は、某社のパソコン上の地図で、あまりはっきり出してしまうと、著作権上ひっかかると思った。この辺は少し心配なこと。

ほかに中学校から出たが、資料についてはROMに入れるという話が前回出たので、ワークシートをたくさんつくったり、関係資料を揃えてきてくれたので、ぜひ入れたい。本文に当たるページも入れて、それぞれの学校で使うときに出して打ち変えることもできるので、そうするといい。場合によっては動画やいろいろな活動の様子も入れ込める。

冊子は、ほかの部会もあって1冊になる。それに添付するCD-ROMがどのぐらいの容量が許されるのかが分からないと、これ以上つくりようがない。

## 事務局

最初のプロット案としては全体のページ数と指導資料としてA4判で学習指導案とワークシート。プラス、その時間以外のワークシートや資料はCD-ROMに入れるということなので、本文が入るかどうかは確認が取れていない。

学習指導案のところで、中学校では指導計画を入れてあとはワークシートがないとやりづらいし、実際の授業が成り立たないのでぜひこういうかたちでとのことだった。最初のプロット案では学習指導案となっているので、できれば1時間でも本時の展開が入っているとありがたい。それも確認をしないとイケない。ほかの部会が見えていない部分がある。一応そういうつもりでいて、最終的にはなるべく早く私からお知らせしたい。なるべく先生方の努力が無駄にならないように、話をさせていただきたい。

## アドバイザー

今の点について。例えば道徳の1時間のものがある。ほかに学級活動（2時間扱い）とか、道徳等（3時間扱い）とか。生活科は12時間扱い。道徳その他で8時間扱い。単発のものはさきほどの説明で済むが、今、議論していたようなところで同じ問題が出てくる。中身よりも形式的なところでどうしたらいいのか。

例えば今の小林先生の3時間扱い、教科の単元、これで完結する。このようなものと、さっき話した12時間扱いの小学校生活科。同じには扱えない。

そこでどうしたらいいのか。私の考え方が、この3時間扱いの場合だと、CD-ROMに入れるとの助けを借りるならば、第1時、第2時、第3時のところをもう少しふくらませて、あとはCD-ROMに入れることにして、残った部分に略案を入れるか、ここに書いてある各教科・領域との関連などを書き込んでもらう。これ全体としてまとまりだから、なんとか出したいという願いは実現したほうがいいと思った。

小学校の12時間扱い、8時間扱いを同じようにやったらとても足りないもので、そこは少し工夫の必要がある。そこをどうするか。生活科の12時間扱いは全体を通してということだが、今のようなかたちで取り上げたら、プロットだけになってしまう。一応全体のプロットは出すにしても、その中のここだけは拡大するというのは、そういう形しか取れないのかと。ただし、制約された中で一つ出すとすればそのやり方があると思った。

この辺は、ほかのところにも皆関わってくる。いちばん頭が痛いと思ったのは、道徳等3時間、道徳その他、あるいは学級活動・道徳2時間扱い。これらの複数時間のものを4ページの中に入れるのか、入れないのか。基本的には入れることになるだろうが、表記の仕方を相当程度工夫しないと全体としての主旨が見えにくくなるおそれもある。この辺はもう一度皆さんの意見も聞きたい。

## 事務局

小学校にも12時間や8時間の単元を組んでいるものがある。先生が言ったような工夫をしないと、全体も見せなくてはいけないし、それだけで終わってしまうと中身がよく分からないものになってしまう。特に心の教育の推進部会としてのねらいを達成しやすい時間を選んで、小学校は1時間を書いているといった考え方になっている。

## アドバイザー

基本を決めておかないと、一生懸命書いてきたことが生きないと困る。最終的にはいろいろ削ることも出てくる。あるいは説明でト書き風に、最後の段階でどう書き加えるか。いろいろな方法があると思う。

なかなか難しいものもある。小中学校、児童生徒と一緒にやるクリーンキャンペーン。これも実際にやった経緯があり、そのことをイメージして書いてある。これも議論すればいくらか出てくるが、なかなか難しい。

もう一つは、最初のところに枠組みで書いてある単元名、あるいは道徳、学活（2時間）など、いろいろな書き方をしている。教育課程上の位置づけをどこではっきりさせるか。ここだけははっきりどこかに示さなくてはいけない。なんでもありでは困る。今すぐ答えは出ない。こういう書き方で適切なのかという議論もある。今後、議論を広げておきたいところ。

二つ目は単元ではない、教育課程上位置づけの違うものを一緒に組み合わせるとき、その結合の仕方、2時間以上の時間の扱いをどうするか。これは表記の問題も含めてである。各教科と道徳と特別活動。特別活動でやる学級活動と道徳の時間をセッティングするのはあまりいい考え方とは思わない。

3点目、活動のねらいは相当いろいろなものを入れている。3、4行では収まらない。ここは、主要な部分は教育活動の位置づけの意味で言うと、本来ねらっているものと、この心の教育部会で強調している部分を、ある程度住み分けをしながら書いておかないといけない。

今後個別に調整する部分と、全体で統一して考えておくべき部分、以上3点。

1番目の単元名、教育課程上の位置づけは、ここで今答えが出なくてもいいと思うが、そのことは課題意識を持っていただく。二つ目の2時間以上の扱いの表記については、ここで方向性を出しておかないと、書き手にとっては不親切、不安になる。3番目は最後に小中学校の代表の方に通して見ていただく中で修正、整合性を取ることである程度可能かと思う。

## 事務局

2番目の道徳と特別活動として2時間となっているところ、それでいいのか、またはほかの表記の仕方がふさわしいのか。

例えば同じ教科で3時間なり5時間ならば、理科何時間といった形でいい。私が気になったのは、教科と道徳が一緒になっていたり、道徳と特活の学級活動が一緒になっているときに、それで合わせて2時間という表記の仕方がいいのか。道徳1、特別活動1といったように、特別活動（学級活動）1としないと教育課程の上においてはおかしいことにならないか。

## アドバイザー

それは教育課程上の位置づけの課題としてずっと続くと思うので、最後に決着をつければいい。問題は2時間以上の扱いを4ページ以内でどう収めるかということ。どちらかを優先すればどちらかから不満が出る。つまり1時間だけピックアップすると全体が見えない。全体像が見えるようにすると個別の具体性が見えてこない。その辺をどう整合性をつけるのか。

## 委員

小学校を検討していた中での捉え方だと、理科は理科の単元のねらいに沿った5時間があり、

生活科の12時間「私の生まれたとき」、それから15時間「2分の1成人式」、それぞれの総合なら総合、理科なら理科の教科・単元のねらいに沿った指導計画があり、本部会の主旨に沿った単元計画の中の、ここの部分を取り出して指導案にしている。かつ、全教科、領域を補充・深化・統合する道徳の時間がそれとどう関連するか、そういう流れのような気がする。

もう一つの考え方としては、例えば理科なら理科、総合なら総合でこの主旨に沿う部分と道徳と学級活動でエンカウンターなりワークシート的なものなり、その3時間を一単元として新たにつくってしまう。そのような考え方だと、この三つは全部載せざるを得なくなる。形式的なものに入る前にその考え方がすっきりしないと。

#### アドバイザー

例えば第5学年理科、5時間扱いで「たんじょうのふしぎ」、「人のたんじょう」がある。

これは、本時の展開を5時間分全部はできない。ところが、単元そのものとして意味があるということであるならば、この5時間の扱いをこういう扱いでしていいのか、そんな細かい議論にもなってくると思う。少なくとも、5時間全部の本時の展開を載せられないので、もっとも活動のねらいで我々の部会で位置づけたことが鮮明に出るところだけを取り上げたというようなことを、下の辺りに断り書きを入れることでいいかどうか。

ところが道徳・特別活動2時間がある。これは1時間、1時間、両方とも入れられる。問題は3時間ないし6時間のものは全部載せられないかどうか。

#### 委員

僕はつくる前に、指導計画のところで気持ちを入れてこんなことをしていきたいとやっていく。できたらCD-ROMに全部の指導案を入れたいという気持ちはあるが、きつい気がする。

#### アドバイザー

しかし4ページ以内であることを優先するとすれば、不満は残っても一つ代表例、あるいは2時間だと2時間分ぐらい、形式的にはそこまでしか載せられないのではないかと。

あとどうするか議論は事務局との折衝になると思う。

#### 委員

載らないのはもちろん載らないと思う。例えば社会科の教材などを冊子にして入れた場合に、具体的にどんな資料を使ってやるのかがないと、社会科の教員が見ても、本時の展開だけでは全然分からない。4ページの中に入れることを考えると、本時の展開を載せるよりも資料を入れておいたほうがよほどいいと思う。

#### 委員

道徳は逆で、この資料でどう展開するかが重要だ。細かい展開例と資料がありワークシート。これがワンセットで書いてあって、あとはワークシートさえあれば、ほかの時間は合わせてつくってほしいと思う。

#### アドバイザー

道徳の時間はそれでたぶん過不足はない。

#### 委員

ある程度の標準的な形式は前回統一したもので、ものによっては幅がないと、扱い時間も違うものを同じ4ページでいこうとしているので、その辺はちょっとフレキシブルにやったほうがいいのではないかと。そうしないと原稿を書いた人が伝えたいことが伝わらないような気がする。きっちり同じ形でそろえればよしとすると、いちばん大事なところが抜けてしまわないか。冊子を見てくださる先生はある程度いると思っているが、そのときに、図が一つあっただけで、これは何だろうと思って見てくれると思う。ワークシートは、そこからCD-ROMを開けてみようかという引っ張り込む力がすごくあると思う。

去年の初めにも、使えるものを見ていただけるようなものをつくりたいという話があった。もちろん12時間扱いでも、何でも全部の指導案があり、各時の展開があり、ワークシートや資料も全部そろっているのは理想的だと思うが、それはつくりきれない。この原稿をつくった人がいちばん伝えたいものがはっきり出ているものを優先するのがベターかと思う。

ある程度の基本的な書式については、前回の「活動内容と指導上の留意点」があり、全部並べていくとか。「1 活動のねらい」で、例えば理科の授業であっても理科の授業だけの教材をつくっているわけではない。心の教育の推進部会として、なぜ理科の授業にこれをするのかを書き込んである。すべて本時の展開もあるのがパターンだと思っているが、あまりその辺をねらうと4ページに入らない。

#### アドバイザー

今日議論しているたたき台になっているものがあるから、これを元にどうするか。これを全部否定しているわけでもない。他の部会、事務局で最後に形式をどのようにするかはまだ定まっていない印象を受けたので……。

#### 事務局

そうだ。最終的に詰めていないのは本当に申し訳ない。

#### アドバイザー

その辺も、多少柔軟性を持たせたものを気持ちとして持っているのだということを伝えていただいて、最終的には形の中に落とすしかない。

#### 事務局

最終的には区として統一して、それに則るしかない。ただ、思いとしてはしっかりと載せるようにしたほうがという点は、責任として伝えていきたい。

#### アドバイザー

個人の思いはもちろんだが、心の教育部会が設けられた趣旨が一層明確になるように、両方必要だと思う。



**事務局**

すっきりしないまま終わってしまうのがたいへん申し訳ないが、要点としてまとめたものをお送りするときにはある程度お示しする。ほかの部会とも連携を取らなければいけないので、それが難しければ、次回までにはできるようにしたい。

今回は9月21日、東庁舎5階の東501会議室。

指導案で、今日修正したものを次回にもう一度配りたければ、データでお送りいただきたい。

**アドバイザー**

4ページ未満のところもいくつかあるようなので、そこも埋めてもらうことは基本条件。

**委員**

この間の話では、2か4、偶数ページで。

**事務局**

2であれば逆にありがたい。ちょっと融通が利く可能性もある。

**アドバイザー**

2ないし4ということで。

**事務局**

3になってしまうと白紙が1枚入ってしまう。